

耐震改修優秀建築賞

建築物名称	柳星山常念寺		
建設地	愛知県一宮市		
構造規模	木造平屋建、延床面積 304.81 m ²		
耐震改修工事竣工年月	2007年9月	竣工年	昭和30年(1955年)
耐震改修関係者	宗教法人常念寺 株式会社浦野設計 株式会社魚津社寺工務店 名古屋工業大学名誉教授小野徹郎		

推薦理由

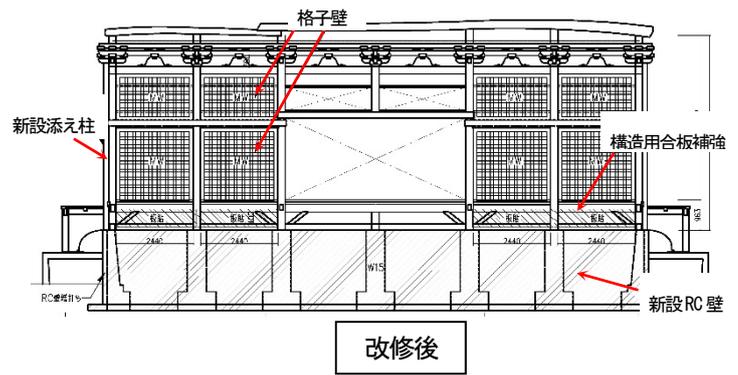
柳星山常念寺は尾張一宮市にある西山浄土宗の寺院で、1390年に創建された。現在の本堂は、1955年に建てられたものであるが、伝統的構法による木造建築である。今回の耐震改修にあたっては、地盤、基礎、建物本体、歴史的経緯などについて入念な調査が行われており、それに基づいて改修方法を検討している。主要な耐震補強要素としては、格子壁を採用しているが、補強後の耐震診断では、この格子壁の水平剪断実験結果を用いている。格子壁を付けることによる柱の負担応力の増加に対しては、補強付柱によって対処している。また、鉄筋コンクリート造の基礎、床構面、小屋梁面、小屋組等についても、必要な補強を行っている。これらの補強がなされているにもかかわらず、意匠上はほとんど違和感がない。文化財になるにはまだ新しいこの種の寺院建築は、日本国中に無数に存在し、かつ、その多くは耐震補強の必要性があると思われる。この常念寺本堂の耐震改修は、個々の部分の補強方法としては格別目新しいものではないが、十分な検討により非常に手堅く改修されており、ほかの同種の寺院建築の耐震改修の参考例になるものであり、耐震改修優秀建築賞を受けるに値すると考え、ここに推薦する。



柳星山常念寺全景



床下改修前



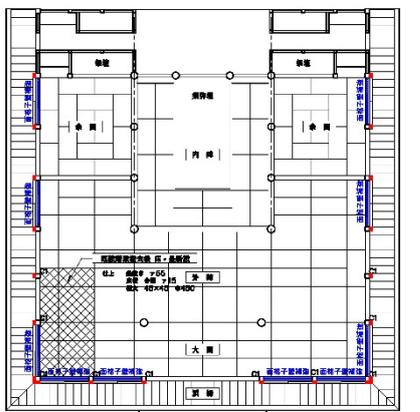
改修後



床下改修後



格子壁と新設添え柱



補強箇所図
 ■ 格子壁
 ■ 添え柱



小屋裏補強